



2.11-1



「運動せずに運動できる」パワープラント法
を開発した

高齢者の廃用性症候群が増えている。脳梗塞などの後遺症で運動が十分できず、四肢の機能まひを起すためだ。「老化防止に運動を」と分かっていてもほとんどの人は続かない。代替のマッサージはあるが全身運動にはならない。では、熟睡しているうちに運動効果を得られればどうだろう

大阪・豊中市で大塚整骨院を営む大塚さんが考案した運動機器セイフレーションは、ベッドに四肢を固定するアームが付いている。徳島の小川製作所で完成し丸5年。改良を繰り返し今では通常考えうるあらゆる操作に対応、緩くも早くも動く。対象者は寝ている間に受動運動効果を得られる。効果のほどは、同院に入りする約40人の男女プロゴルファーが証明している。プロスポーツ選手は、体が資本だから、認めなけ

れば頼まれても施術を受けることはない。今では週末にツアープロトレーナー協会「チーム大塚」を結成、トーナメント開催中のゴルフ場にセイフレーションを持ち込んで常駐、選手をケアするまでになった。

研修教育機関としてNPO法人「パワープラント運動法研究会」を結成、セイフレーションを導入した鍼灸接骨院などの治療所は既に全国で50カ所以上に。「発想は簡単。能動運動に匹敵するリハビリなどを何十分も続ける体力維持はわれわれに不可能。それが機械開発のヒントになった。やってみるとリラックスして熟睡してもらえ、疲労回復の度合いがけた違い。コンピュータ技術は日進月歩で、トレーナーやマッサージ師の仕事が飛躍的に進化する日も近い」

大阪府生まれ、51歳。